

第4次一関市交通安全計画の概要

1 計画作成の趣旨等

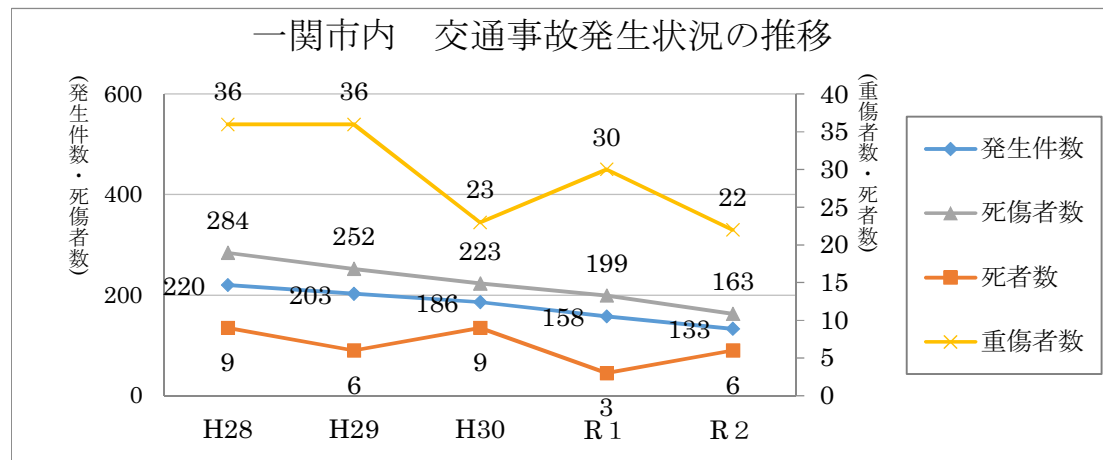
- <経緯>
平成28年度から令和2年度までの5年間は、交通安全対策基本法（昭和45年法律第110号）に基づき策定した「第3次一関市交通安全計画」により、交通安全対策を推進してきた。
それにより交通事故発生件数、死傷者数は年々減少している状況ではあるが、第3次一関市交通安全計画の期間内においては、交通事故により33人の尊い命が犠牲になった。
- <根拠>
交通安全対策基本法第26条の規定に基づき作成するもの
- <期間>
令和3年度から7年度までの5年間
- <趣旨>
 - 本市の交通安全に関する総合的かつ長期的な施策の推進に必要な事項について定める。
 - 「交通安全基本計画」、「第11次岩手県交通安全計画」に基づき作成。
 - 「一関市総合計画後期基本計画」との整合を図り、「SDGs」の理念を踏まえる。
 - 交通事故のない社会を目指す。

2 基本理念

- 交通事故のない社会を目指して
- 人優先の交通安全思想
- 高齢化が進展しても安全に移動できる社会の構築

3 交通事故の現状・特徴と課題

(1) 道路交通の安全



※詳細は別紙参照

【用語解説】

発生件数：交通事故によって死亡又は負傷を伴う事故の数。
 死傷者数：死者数、重傷者数、軽傷者数の合計。
 死者数：交通事故発生から24時間以内に死亡した数。
 重傷者数：交通事故によって負傷し、1か月（30日）以上の治療を要した数。

(2) 踏切道における交通の安全

- ① 現状
 - 踏切事故件数は平成30年の1件
 - 平成28年から29年、令和元年から令和2年(速報値)は0件
- ② 全国的な特徴
 - 踏切事故は全国的に減少傾向
 - 直前横断による事故が約5割発生

4 計画の骨子

第1章 道路交通の安全

<対策を考える視点>

- ① 高齢者及び子どもの安全確保
- ② 歩行者及び自転車の安全確保と遵法意識の向上
- ③ 生活道路における安全確保
- ④ 先端技術の活用推進
- ⑤ 交通実態等を踏まえたきめ細かな対策の推進
- ⑥ 地域が一体となった交通安全対策の推進

講じようとする施策

<6つの柱>

- ① 道路交通環境の整備
- ② 交通安全思想の普及徹底
- ③ 安全運転の確保
- ④ 車両の安全性の確保
- ⑤ 救助・救急活動の充実
- ⑥ 被害者支援の充実と推進

令和7年までに

- (1) 年間の死者数を3人以下にする。
- (2) 年間の重傷者数を20人以下にする。
- (3) 年間の交通事故発生件数を150件以下にする。
- (4) 年間の死傷者数を190人以下にする。

第2章 踏切道における交通の安全

<対策を考える視点>

それぞれの踏切の状況等を勘案した効果的対策の推進

講じようとする施策

<4つの柱>

- ① 踏切道の立体交差化及び構造の改良の推進、歩行者等立体横断施設整備の促進
- ② 踏切保安設備の整備及び交通規制の要請
- ③ 踏切道の統廃合の促進
- ④ その他踏切道の交通の安全と円滑化を図るための措置

令和3年から令和7年まで年間の踏切事故件数ゼロを継続する。

交通事故の現状・特徴と課題（別紙）

(1) 道路交通の安全

① 現状

- ・ 死者数は、6人（令和2年）
- ・ 発生件数は、133件（令和2年）
- ・ 死傷者数は、163人（令和2年）※死者数と傷者数の合計。
- ・ 発生件数、負傷者数は、8年連続で減少

【交通事故死者数、重傷者数、発生件数、死傷者数】

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	5年平均	第4次目標	第3次目標
死者数	9人	6人	9人	3人	6人	6.6人	3人以下	3人以下
重傷者数	36人	36人	23人	30人	22人	29.4人	20人以下	
発生件数	220件	203件	186件	158件	133件	180件	150件以下	190件以下
死傷者数	284人	252人	223人	199人	163人	224.2人	190人以下	240人以下

② 特徴（平成28年～令和2年の5年平均）

- ・ 致死率が高い(3.0%)
- ・ 死者数の高齢者構成率が高い(46.7%)
- ・ 高齢運転者が第1当事者となる死亡事故の比率が高い(17.2%)
- ・ 道路横断中の死亡事故が多い（歩行者死者のうち83.3%が道路横断中）

【死傷者数に占める死者の比率】

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	5年平均
一関市	3.2%	2.4%	4.0%	1.5%	3.7%	3.0%
岩手県	2.4%	2.2%	2.4%	1.9%	2.3%	2.2%
全国	0.6%	0.6%	0.7%	0.7%	0.8%	0.7%

【高齢者死者数と構成率】

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	5年平均
死者数	9人	6人	9人	3人	6人	6.6人
うち高齢者	2人	2人	7人	2人	2人	3人
構成率（市）	22.2%	33.3%	77.8%	66.7%	33.3%	46.7%
構成率（県）	67.1%	45.9%	67.8%	68.9%	67.4%	63.0%

【高齢運転者が第1当事者の死亡事故比率】

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	5年平均
死亡事故件数	9件	5件	8件	3件	6件	6.2件
うち高齢運転者が第1当事者	1件	0人	6人	0人	0人	1.4件
構成率（市）	11.1%	0%	75.0%	0%	0%	17.2%
構成率（県）	28.6%	29.1%	32.8%	40.9%	39.1%	33.3%

③ 背景

- ・ 高齢人口の増加(毎年約1%増 R2.12時点:36.9%)
- ・ 高齢者の免許保有者の増加(毎年約1%増、R2.12時点:31.1%)
- ・ 市域が広く車依存の傾向が強い

④ 課題

高齢化の進行等に対応した交通事故防止

→ 高齢者や子どもが安全に安心して外出できる交通社会の形成に向けた総合的な交通安全対策。